

資料・統計

2002年中央手術部手術統計

Annual Report of Operations in 2002

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 外科					
		腹腔鏡下部分切除	0		
		腹腔鏡下幽門側切除	2		
		非切除	10		
外来手術	48	単開腹	0		
乳腺	48	バイパス	1		
その他	0	Staging laparoscopy	9		
		<hr/>			
甲状腺・副甲状腺	7	再発	7		
甲状腺癌再発	4	肝転移切除	1		
甲状腺全摘術	1	リンパ節郭清	2		
甲状腺半切除術	1	局所切除	3		
原発性副甲状腺機能亢進症	1	卵摘	0		
		人工肛門	1		
		<hr/>			
乳腺		イレウス	8		
良性	4	腸切除	3		
良性腫瘍	4	バイパス	0		
乳輪下膿瘍	0	癒着剥離	5		
乳癌	221	人工肛門造設	0		
Auchincloss	48	胃ろう・空腸ろう	0		
単純乳房切除術	23	<hr/>			
乳房温存手術	130	非上皮性腫瘍	9		
Probe lumpectomy	2	GIST	8		
部分切除	18	悪性リンパ腫	0		
その他	20	その他SMT	1		
		<hr/>			
食道		潰瘍	1		
良性	1	<hr/>			
粘膜下腫瘍	1	その他	6		
悪性	21	<hr/>			
右開胸	18	結腸, 直腸手術症例	200例		
左開胸	1	(2002年 1 月～2002年12月)			
遊離空腸移植	2	原発	171		
		結腸悪性	103		
胃	290	右半結腸切除	39		
		S状結腸切除	26		
胃癌	259	結腸部分切除	16		
非手術	10	右結腸切除	10		
切除	239	横行結腸切除	4		
全摘	70	左半結腸切除	3		
残胃全摘	12	亜全摘	0		
噴門側切除	8	非切除	3		
幽門側切除	138	低位前方切除術	2		
臍頭十二指腸切除術	0	<hr/>			
EMR	0	結腸良性	1		
SLR	9	直腸悪性	67		

	低位前方切除	34	
	前方切除術	18	
	直腸切断術	6	
	経肛門の切除	6	
	ハルトマン手術	2	
	骨盤内蔵全摘術	1	
	非切除	0	
直腸良性		0	
再発		5	
結腸悪性		4	
直腸悪性		1	
肝転移		6	(上記除痔瘻 瘻に含まれる)
	異時	1	
	同時	5	
その他の手術		29	(内緊急 手術 8)
	他科癌大腸合併切除	8	
	低位前方切除術	6	
	直腸切断術	1	
	右半結腸切除術	1	
	腹膜炎手術	6	
	人工肛門閉鎖術	6	
	腸閉塞手術	4	
	人工肛門造設術	2	
	その他	3	
			切除 非切除
膵臓癌			
	膵頭部癌	9	4
	膵体尾部癌	8	3
	IPMT	4	
	MCT	1	
	再発	1	3
肝臓			
	肝細胞癌	15	0
	胆管細胞癌	4	0
	転移性肝癌	15	1
胆道			
	胆管癌	6	0
	胆嚢癌	4	0
	再発	2	0
十二指腸乳頭部癌		2	0
十二指腸癌		3	0
再発		0	1
小腸腫瘍		1	
尿膜管癌		1	
悪性リンパ腫		5	
悪性腫瘍再発		3	1
肝良性腫瘍		3	
胆嚢ポリープ		2	
胆石症・総胆管結石症		15	
その他		14	

2002年の外科手術件数は入院896件、外来48件で2001年と比較すると入院が15件、外来が1件増加した。各臓器別手術件数は乳腺300件、食道23件、胃290件、肝胆

膵131件、直腸・結腸200件であった。乳癌ではAuchinclossが47件減少し、乳房温存手術が21件増加した。食道手術は4件減少した。胃癌手術は290件で2件の増加にとどまったが、幽門側切除が減少し全摘が25件増加した。また腹腔鏡の手術が減少し、開腹手術が増加した。結腸・直腸手術は23件増加したが結腸・直腸癌が18例増加したことによる。直腸癌は低位前方切除も切断術も増加した。肝胆膵は1件の減少であった。最近の手術の傾向として術前診断が向上しているため、縮小手術が増加しており、疾患の内訳はほぼ昨年と同様であった。

(文責 土屋義昭)

2. 呼吸器外科

1	気管(支)疾患	4
	狭窄に対するステント挿入術	1
	気管支腫瘍	1
	気管切開	2
2	肺疾患	252
2-1	良性肺疾患	7
	嚢胞性肺疾患	1(1)
	炎症性肺疾患	6(2)
2-2	悪性腫瘍	245
2-2-1	原発性肺癌	217
	全摘除	2
	肺葉切除	124(3)
	区域切除	44
	部分切除	39(9)
	再発肺癌	6
	審査開胸	2(2)
2-2-2	転移性肺腫瘍	28
	結腸・直腸癌肺転移	11(5)
	骨軟部腫瘍肺転移	5(2)
	腎癌肺転移	2
	乳がん肺転移	2(1)
	婦人科疾患肺転移	2
	胆道疾患肺転移	2
	頸部腫瘍肺転移	3(1)
	皮膚腫瘍肺転移	1(1)
3	縦隔疾患	10
3-1	縦隔腫瘍	8
	胸腺腫	3(1)
	胸腺カルチノイド	1
	胚細胞腫瘍	1
	奇形腫	3(3)
3-2	縦隔鏡検査	1
3-3	多汗症	1(1)
4	胸膜疾患	20
	気胸	6(5)
	膿胸	5

胸膜腫瘍	2
胸膜中皮腫	4
転移性胸膜腫瘍	1
術後乳び胸	2

5 胸壁疾患	0
--------	---

() : 胸腔鏡下手術

心臓血管疾患の専門家が不在であるのに血管手術を手がけることは医療リスクの面より好ましくないとの意見があり、血管関連の手術は他病院に依頼した為、血管手術は 0 となった。

呼吸器疾患の手術数 286 で、2001 年の手術数 263 より増加した。切除を目的とした原発性肺癌に対する手術は 208 で初めて 200 例を超えた。肺癌に関しても手術症例数の多い施設では成績も良好であるとのエビデンスが報告されているが、幸いにも手術死亡は認めなかった。日本全体の傾向として手術対象例の進行度は軽く Stage の若い症例が増加しており、肺全摘の症例は 2 例、気管支形成術も 2 例のみであった。

(文責 小池輝明)

3. 整形外科

良性腫瘍	
切除術	95
切除術+皮弁	2
良性骨腫瘍	
生検のみ	3
切除術	6
搔爬+骨移植	8
小計	114

悪性軟部腫瘍	
広範切除	9
広範切除+筋皮弁等の再建術	8
生検術	7
小計	24

悪性骨腫瘍	
広範切除	2
広範切除+人工関節など再建術	3
生検術	7
小計	12

転移性腫瘍	
脊椎	
椎弓切除+後方固定	7
腫瘍切除+前方固定	4

腫瘍切除	1
椎体垂全摘	1
転移性骨盤腫瘍	1
四肢転移性腫瘍	6
胸壁転移性腫瘍	3

小計	23
----	----

脊椎疾患

非腫瘍性疾患	
ラブ法	32
椎弓切除	11
椎弓切除+後方固定	12
前方固定+椎弓切除	1
前方固定	4
頸椎後方拡大術	2

腫瘍性疾患	
脊髄腫瘍	4

小計	66
----	----

股関節疾患

人工関節置換術	15
人工関節再置換術	2
人工骨頭置換術	4
滑膜切除	1
骨棘切除	1

小計	23
----	----

膝関節疾患

人工関節置換術	19
人工関節再置換術	2
高位脛骨骨切り術	4
半月板切除	3
滑膜切除	8
遊離体摘出	3
関節受動術	1

小計	40
----	----

肩関節疾患

腱板縫合	5
人工関節置換	1
関節受動術	1

小計	7
----	---

肘手関節疾患

腱鞘切開	27
神経剥離術	10
滑膜切除	1
腱移植	1
関節固定	2

尺骨短縮骨切り	1
デュブイトレン拘縮手術	1
靱帯再建	1
<hr/>	
小計	44
<hr/>	
足関節疾患	
外反母趾矯正骨切り	2
陥入爪	1
<hr/>	
小計	3
<hr/>	
その他	
骨接合術	8
抜釘	8
デブリードマン	17
異物除去	1
糖尿病性壊疽趾切断	1
<hr/>	
小計	35

2002年 合計391

合計に対する腫瘍性疾患の比率は45.3%であった。そのうち良性腫瘍64.4%、悪性腫瘍20.3%、転移性腫瘍13.0%、脊髄腫瘍 2.3%であった。転移性腫瘍の手術が減少したが、人工関節手術が増加した。その他は例年並であった。

(文責 畠野宏史)

4. 脳外科

1. 脳腫瘍	
摘出術	39
シャント	8
その他	18
2. 脳血管障害	
血腫除去	4
クリッピング	1
その他	1
3. 頭部外傷	
血腫除去	6
4. その他	4
<hr/>	
計	81

コメント：昨年より、かなり増え、脳外科の厳しい手術基準もクリアできそうです。

(文責 吉田誠一)

5. 産婦人科手術統計

腹式子宮全摘術 (+ 附属器切除術など)	113例
----------------------	------

子宮筋腫	65
子宮腺筋症	9
子宮頸部異形成	6
子宮頸癌	0期 15
	I a期 4
	I b期 1
良性卵巣腫瘍	1
卵巣膿瘍	1
傍卵巣腫瘍	1
<hr/>	
腔式子宮全摘術	19例
子宮筋腫	1
子宮頸部異形成	17
子宮頸癌	1
<hr/>	
腹式子宮全摘術 (+ 附属器切除術) + 骨盤リンパ節廓清術 (+ 傍大動脈リンパ節生検・郭清術)	
子宮体癌	16例
	I a期 1
	I b期 7
	I c期 2
	III a期 4
	III c期 1
	IV b期 1
<hr/>	
準広汎子宮全摘術	6例
子宮頸癌	I a期 3
	I b期 2
	III a期 1
<hr/>	
広汎子宮全摘術	20例
子宮頸癌	I b期 14
	II a期 3
	II b期 3
<hr/>	
卵巣悪性腫瘍 (境界悪性腫瘍を含む) 手術	31例
	I a期 5
	I c期 6
	II b期 1
	II c期 2
	III b期 2
	III c期 7
	IV b期 5
<hr/>	
SLO(Second Look Operation)	2例
卵巣癌	2
<hr/>	
子宮頸部円錐切除術	37例
子宮頸部異形成	10
子宮頸癌	0期 22
	I a期 3
	I b期 2
<hr/>	
その他悪性腫瘍に対する手術	7例

卵巣癌腹腔内再発腫瘍切除	3
試験開腹術	3
外陰癌	1
<hr/>	
附属器切除術	40例
<hr/>	
子宮筋腫核出術	36例
<hr/>	
子宮脱・腔脱・膀胱脱・直腸脱手術	20例
腔式子宮全摘術+前腔壁形成術	8
腔式子宮全摘術+前腔壁形成術+後腔壁形成術	8
中央閉鎖術	3
直腸脱 後腔壁形成術	1
<hr/>	
帝王切開術 (予定帝切10例、緊急帝切 9 例)	19例
前回帝切	3
胎児仮死	3
骨盤位	2
分娩進行停止	2
児頭骨盤不均衡	2
その他	7
<hr/>	
子宮内容除去術 (不全・稽留流産など)	16例
不全流産	5
稽留流産	7
子宮外妊娠疑い	1
子宮体癌 (疑い)	1
人工妊娠中絶	2
<hr/>	
腹腔鏡手術	34例
良性卵巣腫瘍	16
不妊症 (癒着剥離術)	5
乳癌術後	4
子宮外妊娠	2
その他	7
<hr/>	
経頸管的切除 (TCR)	1例
<hr/>	
その他良性疾患に対する手術	15例
後腹膜腫瘍に対する手術	2例
旁卵巣腫瘍切除術	1例
腔腫瘍切除術	2例
外陰腫瘍切除術	2例
骨盤内動静脈奇形 (AVM)	1例
腸間膜腫瘍切除術	1例
骨盤内偽嚢腫開窓術	1例
バルトリン腺膿瘍造袋術	2例
子宮外妊娠手術	2例
シロッカー手術	1例
<hr/>	
	432例

2002年の産婦人科の手術は432例であり、前年に比

べて4例増加した。悪性腫瘍のうち子宮頸癌は、頸部円錐切除術27例、単純子宮全摘術20例、準広汎子宮全摘術6例、広汎子宮全摘術20例で、いずれも増加している。子宮体癌は16例であり、減少した。一方、卵巣癌 (新規) は増加した。

良性疾患に対する手術のうち、腹腔鏡手術は昨年の10例から34例と著しく増加した。従来からの開腹手術ではなく腹腔鏡手術により摘出される良性卵巣腫瘍が増えており、入院日数の短縮化に寄与している。

産科手術のうち、帝王切開術は19例で、この間の総分娩数100例に占める割合は19%であった。

(文責 本間 滋)

6. 耳鼻咽喉科

(1) 悪性腫瘍に対する手術	99
<hr/>	
1. 口腔 (舌以外)	1
切除	1
2. 舌	14
部分切除	12
切除+再建	2
3. 鼻副鼻腔	3
腫瘍切除	3
4. 中咽頭	1
切除+再建	1
5. 喉頭	16
レーザー手術	6
全摘	10
6. 甲状腺	41
葉切除	34
全摘	7
7. 頸部	14
転移性リンパ節切除	4
頸部郭清	10
8. 唾液腺	9
顎下腺腫瘍切除	4
耳下腺全摘	4
舌下腺腫瘍切除	1
<hr/>	
(2) 良性疾患に対する手術	50
<hr/>	
1. 口腔・口唇	3
腫瘍等切除	3
2. 咽頭	2
扁桃摘出術	2
3. 喉頭	15
声帯ポリープ切除	13
肉芽腫・嚢胞切除	2
4. 甲状腺	4
葉切除	1
全摘 (バセドー病)	3
5. 唾液腺	19
顎下腺摘出	3
耳下腺部分切除	16

6. 副甲状腺	5
腫瘍摘出	5
7. 顔面頸部	2
アテローム摘出	2
(3) その他	80
<hr/>	
1. 生検	69
鼻副鼻腔	3
咽頭	4
喉頭	31
甲状腺	4
頸部リンパ節	20
唾液腺	1
2. 気管切開	14
3. 気管切開孔手術	1
4. 食道ブジー	2

悪性腫瘍では舌手術や喉頭レーザー手術の増加が目立った。一方再建を要する手術が比較的少なかった。良性疾患では耳下腺手術がかなり多かった。

(文責 長谷川聡)

7. 泌尿器科

表1. 悪性腫瘍に対する手術

1. 後腹膜腫瘍	0
2. 腎細胞癌	(43)
根治的腎摘出術	32
部分切除・腫瘍核出	11
3. 腎盂尿管癌	(18)
腎尿管全摘除術	17
TUR	1
4. 膀胱癌	(196)
根治的膀胱全摘除術回腸導管	15
TUR-Bt (生検を含む)	176
膀胱部分切除	1
鼠径リンパ節郭清	1
前立腺浸潤生検	3
5. 前立腺癌	(269)
根治的前立腺全摘除術	22
針生検(疑いを含む)	225
TUR-PCa	3
去勢術	19
膀胱ろう造設	3
6. 精巣腫瘍	(10)
高位精巣摘除	8
精巣生検	2
7. 陰茎癌	0
8. その他	(2)
白血病に対する精巣生検	1
直腸癌膀胱浸潤膀胱全摘 (他科手術と併施)	1

小計 (538)

表2. 良性腫瘍に対する手術

1. 副腎腫瘍	
副腎摘除術	1
腹腔鏡下副腎摘除術	3
2. 腎良性腫瘍切除	1
3. 前立腺肥大症TUR-P	23
<hr/>	
小計	(28)

表3. 腫瘍以外の手術

1. 腎臓	
経皮的腎瘻術 (原因疾患は良悪を含む)	12
腎生検	2
腎嚢胞穿刺	3
2. 尿管	
尿管カテーテル (原因疾患は良悪を含む) (カテーテル留置を含む)	48
尿管鏡	5
尿管尿管吻合(他科手術と併施)	1
尿管拡張	1
3. 膀胱	
経尿道的膀胱碎石	5
4. 尿道	
内尿道切開(尿道狭窄)	5
尿道脱, 尿道小阜	3
GAXコラーゲン注入	1
外尿道口嚢胞	1
5. 陰囊・精巣	
精巣固定術	1
陰囊水腫根治手術	4
6. 陰茎	0
包茎手術	4
7. その他	
鼠径ヘルニア	1
創再縫合, ドレナージ	2
<hr/>	
小計	(102)

2002年の泌尿器科手術, 延べ631名, 669件の集計を行なった。同一症例で複数回, 複数箇所の手術をしている場合があり, これらはそれぞれ1件として表記した。悪性腫瘍の手術の項には生検を含み, その他の手術にも多くの癌患者を含むため, 悪性疾患患者の実数を表してはいない。極めて有用な腫瘍マーカー PSAの普及により, 前立腺生検の件数が年々増加し, 根治的前立腺摘除術の適応となる患者も増加が著しい。

(文責 小松原秀一)

8. 皮膚科手術統計

悪性腫瘍	
悪性黒色腫	22
基底細胞癌	34
有棘細胞癌	17
ボーエン病	16
日光角化症	14
外陰パジェット癌	6
皮膚付属器癌	7
悪性軟部腫瘍	2
悪性リンパ腫	7
転移性皮膚癌	2
小計	127
良性腫瘍・その他	
母斑細胞母斑 (ほくろ)	101
表皮嚢腫 (粉瘤)	114
脂漏性角化症	28
脂肪腫	31
皮膚線維腫・軟性線維腫	20
脂腺母斑・青色母斑	16
良性皮膚付属器腫瘍	12
血管腫	9
ケラトアカントーマ	5
石灰化上皮腫	13
化膿性肉芽腫	2
慢性膿皮症	4
毛巣洞	4
神経線維腫	5
その他	60
小計	434

全体の手術件数は微増傾向であった。2002年より悪性黒色腫をはじめとする皮膚癌において、術前のリンフォシンチグラフィと術中のガンマプローブによるナビゲーションを併用したセンチネルリンパ節生検を施行しており、迅速病理診断の結果でリンパ節郭清施行の有無を決定している。今後症例を蓄積していきたい。

(文責 竹之内辰也)

9. 眼科

白内障	超音波乳化吸引術+眼内レンズ挿入術	172件
	計画的嚢外摘出術+眼内レンズ挿入術	27
	眼内レンズ挿入術	1
	眼内レンズ挿入術	1
緑内障	隅角線維柱帯切除術	12
内反症	Hotz氏法	4
眼瞼腫瘍	摘出術	9
さん粒腫	摘出術	2
眼瞼下垂	眼瞼挙上術	2
翼状片	切除+結膜弁移動	1
その他	硝子体手術	1
計		235件

昨年と比較して、高齢者の白内障手術が増し、計画的嚢外摘出術+眼内レンズ挿入術がやや増えたようである。
(文責 難波克彦)